

ファッションにおける女子大学生と母親世代のジェンダー観分析

No.125 内藤研究室 A22AB016 岩月咲来

はじめに

昨今、ジェンダーという言葉は様々な場面で多用されている。ファッションにおいてもジェンダーに対する多様化が進んでおり、SNSを中心に性別に捉われないファッションへの関心が高まっている。しかし、元々の価値観からの変化を受け入れられない世代も多くいるだろう。ファッションに対するジェンダー観が異なれば、会話が成り立たないだけでなく、非難や叱責、排除などネガティブなコミュニケーションが起こる場合もある。そうしたネガティブな意見によって着たい服を着られないなどの問題を抱える場合も少なくないだろう。ファッションに対するジェンダー観を把握しておくことが双方の価値観を理解し円滑なコミュニケーションを取るために有効と考える。

そこで本研究は、**女子大学生とその母親を対象にファッションにおけるジェンダー観の調査**を行い、相互理解の手がかりを得ることを目的に研究を行った。

予備調査

調査目的：**女子大学生がファッションをどのように捉えているのか**明らかにする

調査対象者：本学科の4年生20名

調査方法：**KJ法**を用いて、雑誌やインターネットからランダムに選出した50試料（着用者の性別は男性・女性の両方、全てモノクロ化、顔や背景は削除）を類似イメージでグループ化し、グループ名をつけてもらう。（図1）

Google フォームを用いて**ジェンダーに関する質問(計6問)**に回答してもらう



図1.KJ法を用いたイメージ分類

調査結果

女子大学生は「**衣服の丈の長さ**」「**タイトさ**」「**装飾の有無**」などによってファッションを分けて捉え、ファッション全体の印象形成に影響を与えていたことがわかった。

本調査

調査目的：**女子大学生と母親世代のジェンダー観を明らかにする**

調査対象者：女子大学生149名とその母親15名

調査方法：ファッションの印象評価およびジェンダー観と経験に関するアンケート調査を実施。印象の異なる10試料を選出し、表1の10形容語対を用いたSD法による5段階評価を実施。ジェンダー観に関するアンケート調査項目(計5問)に対して「全くそう思わない」～「非常にそう思う」の5段階で回答を求めた。「経験に関するアンケート調査(計5問)も実施した。

表1. イメージ評価尺度					
	非常に	やや	どちらでもない	やや	非常に
女性的					男性的
フォーマル					カジュアル
若々しい					大人っぽい
エレガント					スポーティー
豪華的					シンプルな
直線的					曲線的
スウィート					クール
伝統的					現代的
好き					嫌い
自然な					違和感のある

調査結果

● ファッションの印象評価

女子大学生149名分のファッションの印象評価について、試料ごとに10形容詞対それぞれの平均を求めイメージプロフィールを作成した。

特徴的な結果を示した試料9を取り上げ、図2に示す。

試料9は**男性が着用する衣服**だが、イメージプロフィールを見ると、「**女性的－男性的**」の評価項目が「**男性的**」ではなく「**女性的**」と評価された。事前調査では「メンズスカート」と回答した人もいたが、他の試料においてもスカートを組み合わせたファッションは「女性的」と評価されていることから、「**スカート**」は着用者の性別に関わらず「**女性的**」な印象を形成するアイテムと考えられる。



図2. イメージプロフィール（試料9）

● ファッション評価の因子構造

女子大学生149名のファッション評価得点を用いて因子分析（主因子法、バリマックス回転）を行った結果、3因子を抽出した（表2）。累積寄与率は48.5%であった。

表2 女子大学生 因子分析結果

変数	因子1	因子2	因子3	因子名
装飾的-シンプルな	0.805	-0.039	-0.033	
女性的-男性的	0.660	0.349	0.149	
スウェット-カーネル	0.564	-0.072	-0.002	
直線的-曲線的	-0.580	0.071	0.181	
好き-嫌い	0.179	0.854	-0.047	
自然な-違和感のある	-0.240	0.603	0.091	評価性
フォーマル-カジュアル	0.037	0.198	0.745	
エレガント-スポーティー	0.542	0.229	0.601	
若々しい-大人っぽい	0.352	-0.039	-0.402	
伝統的-現代的	-0.057	-0.122	0.346	
固有値	2.249	1.335	1.263	
寄与率	0.225	0.133	0.126	
累積寄与率 (%)	22.5%	35.8%	48.5%	

女子大学生とその母親15組のファッション評価値をまとめて因子分析を行った結果、女子大学生と同様の3因子が抽出された。累積寄与率は53.4%であった。

● 女子大学生と母親のファッションの捉え方比較

女子大学生と母親のファッションの捉え方の違いを確認するために因子得点を用いて、第1因子と第2因子を軸とした散布図を作成した。

スカートを組み合わせた試料は第1因子「性別表現の因子」の得点が低く、パンツを組み合わせると高くなつた。また、上半身や下半身にタイトな衣服が含まれている場合に、各因子の得点は高くなつた。一方で、体型がわかりにくい試料6、9、10は中央に位置し、性別表現の評価があいまいになった。なお、試料9はボトムスにスカートとパンツの両方を組み合わせているが、女子大学生よりも母親の方が「女性的」と評価した。これは、母親が「パンツ」ではなく「スカート」を見て評価した結果と考えられ、着用者の性別判断があいまいとなる衣服はスカートの影響が優位になると考えられる。

● 数量化I類による要因分析

因子分析時に算出された因子得点を目的変数に、以下5項目を説明変数とした数量化I類を実施した。

- | | |
|------|--|
| 説明変数 | <ul style="list-style-type: none"> ボトムス（スカート・パンツ） トップスのタイトさ（タイト、セミタイト、ルーズ） ボトムスのタイトさ（タイト、ルーズ） 装飾の有無（あり、なし） 着用者性別（男性・女性） |
|------|--|

その結果（表3）、性別表現の因子にはボトムスの種類、評価性の因子にはトップスのタイトさ、フォーマル性の因子にはトップスやボトムスのタイトさが特に影響していた。

表3. 数量化I類による要因分析

アイテム	カテゴリー	性別表現の因子		評価性の因子		フォーマル性の因子	
		レンジ	スコア	レンジ	スコア	レンジ	スコア
ボトムスの種類	スカート	1.061	-0.637	0.503	-0.302	0.471	-0.282
	パンツ		0.424		0.201		0.188
トップスのタイトさ	セミタイト	0.515	-0.134		-0.171		0.422
	タイト		0.020	1.296	-0.392	1.597	-0.092
	ルーズ		0.381		0.905		-1.175
ボトムスのタイトさ	タイト	0.718	0.502	0.330	0.231	1.960	-1.372
	ルーズ		-0.215		-0.099		0.588
装飾の有無	あり	0.030	0.018	0.810	0.486	0.955	-0.573
	なし		-0.012		-0.324		0.382
着用者性別	女性	0.361	-0.180	0.376	-0.188	0.905	-0.453
	男性		0.180		0.188		0.453
定数項			0.000		0.000		0.001
重相関係数			0.956		0.877		0.765
重相関係数の2乗			0.914		0.770		0.585

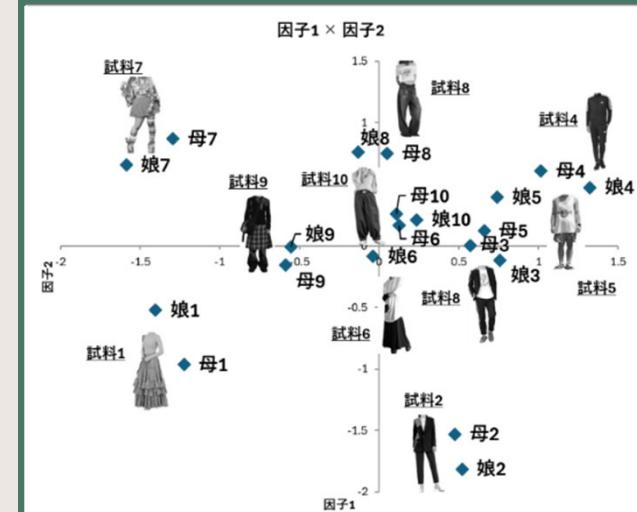


図3. 女子大学生と母親のファッション評価の傾向比較

● 女子大学生と母親のジェンダー観比較

女子大学生と母親の15組のアンケート結果を比較した結果、「女性は女性らしい、男性は男性らしい服装をしたほうがいいと思う」の質問において、女子大学生は8割が「全くそう思わない」と回答しているのに対し、母親は「全くそう思わない」「少し思う」「やや思う」に分散するなどジェンダー観に違いが認められた。

おわりに

本研究により以下のことが明らかになった。

- 人はファッションを捉えるときには露出や体のラインの特徴をもって着用者の性別判断すること
- それらの特徴が不明の場合は衣服が判断材料となること
- スカートとパンツの両方を履いている場合、母親はスカートを判断基準として着用者性別を判断する傾向がある

ジェンダー観には身体特徴とともに「ボトムスの種類」が影響することが明らかになった。

ファッションにおけるジェンダー観は、個人の好みが影響しているのではなく、社会的背景が関係していると言える。